

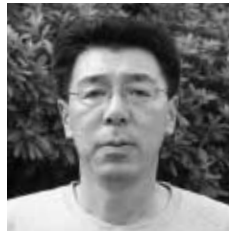
子供たちを守る皆さんにお話を伺いました



こども安全支援隊
藤原 義光さん
(北浜町・57歳)

以前から北小おやじの会で同様の活動を行ってきていましたが、最近の事件を見て、やはり地域で子供たちを守ることは大事なことだと思います。普段は個人で時間の都合がつく限り見回りなどを行っていますが、定期的に隊員が集まって巡回する「見える活動」も実施したいと考えています。隊員以外の方でも、協力できる方は見回りに参加してほしいですね。

隊員以外の方も
積極的な参加を



町PTA連合会会長
佐藤 吉孝さん
(八幡町・44歳)

最近のニュースを見るたびに、同年代の子供を持つ親として心配になります。子供には知らない人にはついていくなとか、できるだけ人通りの多い道を通学するようにと言っています。地域の大人と子供たちが普段から接する機会を持つことで、子供たちが安心して通学できる環境がつけられるように、各団体と協力し合って取り組んでいきたいと考えています。

安全に通学できる
環境をつくりたい



山田北小学校校長
菅野 宏郎さん
(宮古市・59歳)

本校では、地域の方や北小おやじの会、交通指導隊などの皆さんのご協力により、毎朝の登校指導やこども安全支援隊の皆さんによる放課後巡視などの活動に取り組んでいます。子供たちを安全に登下校させるためには、学校だけでは限界がありますので、地域の方やPTAとの協力が欠かせません。これからも地域ぐるみでの活動を続けていきたいと思っています。

地域との連携が
必要不可欠です



7月19日に行われたこども安全支援隊による一斉下校の様子(山田地区)

みんなで守ろう地域の家

子供たちが安心できる町に

最近、全国的に小さい子供を狙った痛ましい事件が発生しています。本町でも児童生徒が不審者から声を掛けられる事件が発生するなど、一歩間違えば凶悪な犯罪に発展する可能性もあり、もはや対岸の火事では済まされません。子供たちを事件や犯罪から守るため、地域や学校などでさまざまな取り組みが行われています。

宮古警察署山田交番によると、町内での不審者による児童生徒への声掛けは平成十七年に五件、今年は一月から七月までです。に五件発生(下表参照)しており、今後も同様の事例が発生しないとは限りません。

「こども安全支援隊」を結成

昨年四月、宮古警察署の呼び掛けにより、登下校時の児童生徒の安全を見守る「こども安全支援隊」が各小学校に結成されました。七月二十四日現在、隊員数は町全体で九十八人に上り、

地域住民だけでなく民生児童委員や老人クラブなど、さまざまな分野の方がボランティアで活動に参加しています。

同隊は登下校時に学区内を巡回したり、一斉(集団)下校に付き添ったりするなど、見回りや見守りを主な活動としています。そのほか、学校で独自に行っている活動として、山田南小学

学校や各団体でも独自の活動

◆不審者による児童生徒への声掛け発生状況

〔平成18年〕

日 時	場 所	状 況	不審者の特徴
2月23日 午後5時半ころ	織笠地区	下校途中の女子中学生が道端でズボンを下ろしている男を目撃。男は自転車で逃走した。	40歳くらい、身長170センチくらい、やせ型、ジャージ姿の男
4月10日 午後6時半ころ	織笠地区	下校途中の女子高校生2人に対し、近づいてきた男がひわいな言葉を掛けてきた。	40歳～50歳、身長165センチくらい、中肉の男
4月13日 午後4時半ころ	飯岡地区	下校途中の女子高校生2人に、近づいてきた車から不審な男が声を掛けてきた。	黒っぽい車に乗った20代後半の男
4月19日 午後1時50分ころ	大浦地区	男子小学児童に、「お母さんが山田に行ったから一緒に行こう」と誘い、車に乗せようとした。	黒い野球帽、黒のサングラス、白いマスク、黒のジャンパーを着た男
4月27日 午前11時ころ	織笠地区	女子高校生が車で近づいてきた不審な男から声を掛けられ、メモを渡された。	20代後半、身長175～180センチくらい、中肉、チェック柄のシャツ、黒の乗用車

校と学区内の教育機関やPTA、自治会などで構成する次世代育成ネットワーク協議会(佐藤忠暉会長・二十九団体)では黄色いペナントを作製し、通学路沿線の家庭などに配布。ペナントを玄関などに掲げてもらい、児童の見守りと体調不良などで助

けを求めてきた場合の対応をお願いしています。

大浦小学校では、昨年作成した通学路安全マップを利用して、犯罪に巻き込まれないための危険場所の点検とマップ作りを計画。児童たちがPTAや地域の方々と協力して、年内の完成を目標としています。

また、学校以外にも山田BBS会(川石睦会長・会員三十八人)では、通学時間である午前八時と午後三時に外出して子供の安全を見守る「83運動」への協力を呼び掛けています。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

子供たちは明日の山田を支える「地域の家」。その子供たちが安心して通学できる町にするためには、多くの皆さんのご協力が必要です。こども安全支援隊などに参加していない方も、登下校の時間に外出するようにしたり、通学する子供たちとあいさつを交わしたりすることで、立派な見守りの活動になるほか、人が外にいることで、犯罪を抑制する効果も期待できます。

各学校は夏休みに入り、子供たちは大人の目を離れて外で遊ぶ機会が多くなります。外で遊んでいる子供たちを見かけたら、少しだけ気を配っていただきませう、お願いします。

身を守る手段を教えるのも大切

宮古警察署山田交番所長
鬼同 健さん
(中央町・57歳)



「イカのおすし」は、子供たちが注意すべきことを警視庁が分かりやすくまとめた標語です。地域や学校、PTAなどで子供たちを守るのはもちろん重要なことですが、一方的に守るだけでは一人になったとき何もできず、子供たちにとって良くないことだと思います。子供たちに自分の身を守る手段を教えることも大切です。

「イカのおすし」みんなで見えよう

- 1 **い**かない
知らない人にはついていかない。
- 2 **の**らない
知らない人の車には乗らない。
- 3 **お**おごえをだす
自分や友達が連れていかれそうになったら、「たすけて」と大きな声を出す。
- 4 **す**ぐにげる
大人のいる方や、近くの店や家に逃げる。
- 5 **し**らせる
どんな人が何をしたか、先生や家の人